

2025年12月14日

新潟県知事 花角 英世 様

柏崎刈羽原発の再稼働容認の撤回を求める要請

私たちは、11月21日、貴職が柏崎刈羽原発再稼働を容認し、県議会に判断を仰ぐと表明したことに抗議し、容認撤回を求めます。

県民意識調査では60%を超える県民が再稼働の条件は現状では整っていないとし、どのような対策を取っても再稼働をすべきではないが47%、再稼働すべきは50%と二分されている中での容認です。しかも「県民に信を問う」と述べてきたにもかかわらず、直接県民に問うのではなく、県議会に判断を仰ぐとは公約違反ではないでしょうか。国、東電、経済界から避難道路の整備費の全額負担や1000億円規模の資金拠出等強い働きかけがあったとはいえ、知事自身が県民に分断を持ち込んでいるとしか思えません。

東京電力は言うまでもなく福島第一原発で重大事故を起こした当事者です。フクシマ事故は終わっていません。緊急事態宣言は続き、廃炉はままならず、復興は道半ばです。東電は事故被害者に対する完全賠償を行っていません。東電は21年にテロ対策を巡る不祥事が相次ぎ、そして今年も社員機密文書を無断で持ち出す等不祥事が絶えず、事業者としての適格性を欠きます。そんな東電が再び原発を運転することに県民の7割は不安を感じています。

柏崎刈羽原発の近くには大きな海底断層が指摘されており、地盤が悪すぎて「豆腐の上にある原発」と言われています。しかも2007年の中越沖地震で被災した「傷だらけ」の原発です。昨年正月の能登半島地震は自然災害に原発事故が重なり複合災害が起これば、避難計画等役に立たない事を明確に示しました。事故時に豪雪や悪天候が重なれば避難できない事は明らかです。

私たちは、広島・長崎の原爆被爆者に学びながら、チェルノブイリ、フクシマの原発事故被害者と顔の見える関係を大切に支援・交流を行ってきました。「事故さえなければ」との被害者の思い、被害者の苦しみ・悲しみを知り、甚大で取り返しのつかない原発重大事故の被害に心を痛めました。そしてこれ以上原発事故を繰り返してはならないと訴えてきました。

重大事故が起きてからでは遅すぎるのです。重大事故の放射能汚染による被害は新潟県内に留まりません。この地震・火山国日本で、原発の運転・再稼働は許されません。

私たちは日本国民として、知事の柏崎刈羽原発再稼働容認に強く抗議し、直ちに容認を撤回するよう重ねて求めます。そして、本当に「県民に信を問う」べく、再稼働の是非を住民投票や知事選で問う事を要望します。

チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西 発足34年の集い参加者一同

(チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西は旧ソ連のチェルノブイリ原発重大事故を契機に、事故被害者との支援・交流を1991年から行っています。「原発重大事故を繰り返さないで、これ以上ヒバクシャを生み出さないで」と訴えて関西を中心に活動している市民グループです。)